

助産診断技術学Ⅱ

| | | | |
|--------------|-------------------|--------|---------|
| 責任者・コーディネーター | 成育看護学講座 蛸崎 奈津子 教授 | | |
| 担当講座・学科(分野) | 成育看護学講座 | | |
| 対象学年 | 3 | 区分・時間数 | 講義 12時間 |
| 期 間 | 後期 | | |
| 単 位 数 | 1単位 | | |

・学習方針（講義概要等）

妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期に起こりうる異常のメカニズムを理解し、予防や早期発見に向けた基本的なスクリーニング方法について学ぶ。また、心理社会的にハイリスクな妊産婦のリスク要因についても学修する。それらの学びを踏まえ、具体的な助産ケアのあり方を理解する。具体的には、ハイリスク妊娠と助産ケアの基本、妊娠期の異常、分娩期の異常、新生児期の異常、産褥期の異常および心理社会的ハイリスク対象者への具体的な助産ケアについて学ぶ。

・教育成果（アウトカム）

助産師には周産期の各期に起こりうる異常に関するスクリーニング能力が必要となる。この授業を通じ、妊娠期から産褥期における異常について、その症状や経過、治療方針および助産診断の基本について理解することができるようになる。

【学位授与方針と当該授業科目との関連】

ディプロマ・ポリシー：2, 3, 4, 5, 7

・到達目標（SBO）

1. 妊娠期に起こりうる異常のメカニズムを学び、必要な助産診断の基本を理解することができる。
2. 分娩期に起こりうる異常のメカニズムを学び、必要な助産診断の基本を理解することができる。
3. 産褥期に起こりうる異常のメカニズムを学び、必要な助産診断の基本を理解することができる。
4. 妊娠期から産褥期を通じ、ハイリスク妊産婦と家族への助産ケアの基本を理解することができる。

・ 授業日程

(矢) マルチ 4-A 講義室/マルチ 3-A 実習室

【講義】

| 月日 | 曜日 | 時限 | 講座(学科) | 担当教員 | 授業内容/到達目標 |
|------|----|----|---------|--------------|---|
| 9/5 | 月 | 5 | 成育看護学講座 | 蛎崎 奈津子 教授 | ハイリスク妊娠と助産ケア (グループワーク) ・ ハイリスク妊娠の種類とそれに対する助産ケアの役割について理解することができる |
| 9/12 | 月 | 4 | 成育看護学講座 | 蛎崎 奈津子 教授 | 妊娠期の異常と助産診断① ・ 妊娠疾患(妊娠悪阻、妊娠高血圧症候群)、持続期間(切迫流・早産)、着床の異常(異所性妊娠、前置胎盤)、合併症妊娠、母子感染症等についてその経過と必要な助産ケアについて理解することができる |
| 9/12 | 月 | 5 | 成育看護学講座 | 蛎崎 奈津子 教授 | 妊娠期の異常と助産診断② ・ 胎児(多胎、血液型不適合)付属物(早剥、羊水過多・少)、胎児発育不全等についてその経過と必要な助産ケアについて理解することができる |
| 9/14 | 水 | 4 | 成育看護学講座 | 遊田 由希子 特任准教授 | 分娩期の異常と助産診断① ・ 娩出力(微弱・過強陣痛)、胎児・付属物(回旋異常、前期破水、臍帯下垂)等についてその経過と必要な助産ケアについて理解することができる |

| | | | | | |
|------|---|---|---------|--------------|---|
| 9/15 | 木 | 4 | 成育看護学講座 | 遊田 由希子 特任准教授 | <p>分娩期の異常と助産診断②</p> <ul style="list-style-type: none"> 産道の異常、分娩時裂傷、合併症（産科ショック、羊水塞栓症、HELLP 症候群）、産科手術（急速遂娩、吸引・鉗子分娩、骨盤位分娩、帝王切開術）等についてその経過と必要な助産ケアについて理解することができる |
| 9/20 | 火 | 3 | 成育看護学講座 | 遊田 由希子 特任准教授 | <p>産褥期の異常と助産診断</p> <ul style="list-style-type: none"> 子宮復古不全、産褥熱、深部静脈血栓症、尿閉、尿感染症、産後うつ病等についてその経過と必要な助産ケアについて理解することができる |
| 9/22 | 木 | 3 | 成育看護学講座 | 蛎崎 奈津子 教授 | <p>ハイリスク妊産婦と家族へのケア（グループワーク）</p> <ul style="list-style-type: none"> ハイリスク妊産婦と家族への具体的な助産ケアについて、学生間のディスカッションを通じて、模擬実践をすることができる |
| 9/22 | 木 | 4 | 成育看護学講座 | 蛎崎 奈津子 教授 | <p>周産期に起こりうる異常に対する助産師の役割（グループワーク）</p> <ul style="list-style-type: none"> 助産師に求められる周産期各期に起こりうる異常に対して、想定される場面の実践を通じ、必要な助産ケアと助産師の役割について具体化することができる |

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

| | 書籍名 | 著者名 | 発行所 | 発行年 |
|---|--------------------------------|------------|------|------|
| 教 | 助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期 | 我部山キヨ子他 編集 | 医学書院 | 2021 |

| | | | | |
|---|--------------------------------------|------------|------|------|
| 教 | 助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期 | 我部山キヨ子他 編集 | 医学書院 | 2021 |
| 教 | 助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児期・乳幼児期 | 石井邦子他 編集 | 医学書院 | 2021 |
| 教 | 根拠と事故防止からみた 母性看護技術 | 石村由利子 編集 | 医学書院 | 2020 |

・成績評価方法

定期試験 100%にて評価する。

・特記事項・その他

【事前事後学修の具体的内容及び時間】

シラバスに記載されている授業内容および到達目標を確認し、教科書や既習科目の関連資料等をもとに予習した上で講義に臨むこと。講義終了後は教科書や配付資料、ノート等にて復習を必ず行い、次の講義に臨むこと。各授業に対する事前事後学修時間は最低 60 分を要する。

【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】

レスポンスカード等については、次の授業等で適宜コメントを伝える等、学生にフィードバックする。

【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】

助産師（別表 2）：助産診断・技術学

・授業に使用する機器・器具と使用目的

| 使用区分 | 機器・器具の名称 | 台数 | 使用目的 |
|------|--------------------|----|-----------|
| 講義 | プロジェクター（VPL-FWZ60） | 1 | 講義用スライド投影 |
| 講義 | 書画カメラ（P-100） | 1 | 講義用資料投影 |